11日　火曜

ヨハネ

11:45 マリアのところに来ていて、イエスがなさったことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。
11:46 しかし、何人かはパリサイ人たちのところに行って、イエスがなさったことを伝えた。
11:47 祭司長たちとパリサイ人たちは最高法院を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの者が多くのしるしを行っているというのに。
11:48 あの者をこのまま放っておけば、すべての人があの者を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も取り上げてしまうだろう。」
11:49 しかし、彼らのうちの一人で、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは何も分かっていない。
11:50 一人の人が民に代わって死んで、国民全体が滅びないですむほうが、自分たちにとって得策だということを、考えてもいない。」
11:51 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。彼はその年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、
11:52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。
11:53 その日以来、彼らはイエスを殺そうと企んだ。
11:54 そのために、イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをせず、そこから荒野に近い地方に去って、エフライムという町に入り、弟子たちとともにそこに滞在された。
11:55 さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づいた。多くの人々が、身を清めるため、過越の祭りの前に地方からエルサレムに上って来た。
11:56 彼らはイエスを捜し、宮の中に立って互いに話していた。「どう思うか。あの方は祭りに来られないのだろうか。」
11:57 祭司長たち、パリサイ人たちはイエスを捕らえるために、イエスがどこにいるかを知っている者は報告するように、という命令を出していた。

Bible Reference 聖書の記述

　イエス様に多くの群衆がついていくと、イスラエルの権力バランスが崩れて、それをきっかけに抑えられていた群衆が蜂起するかもしれない…そうするとそれを口実にローマ軍が攻めて来て、イスラエルを滅ぼすかもしれないというのが、祭司長とパリサイ人の心配でした。そこでカヤパが言ったのは、そうなる前にイエスを殺そうということです。
　彼の大祭司という役職は神から与えられていたので、意図せずに神の計画を預言したのです。これは神様に用いられたということですが、彼には何の功績もありません。その動機はむしろさばかれるべきものです。
　このように私たちは神様によって立てられた働き人を尊重する必要があります。しかし、人が用いられたからといって、彼が常に正しくきよいとは限りません。ですから主に用いられる人は謙遜でなければなりません。
　イエス様の立場はどんどん危うくなってきますが、それは大いなるご計画の進展であり、神様の大いなる知恵ゆえに、人にはまだ理解できないものでした。常に今起きていることの先に神様のすばらしいご計画の進展があることを期待しましょう。そして主のみこころを求めて、教えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？